

「友達と一緒にしてくれてうれしかった！」の声が聞けた授業

— 小学部 3 年生・算数「長さ」 —

大阪精神医療センター分教室

1 はじめに

本分教室に在籍する児童生徒は、診断として発達障害・適応障害等を有し、また地域校では不登校になっているケースが多い。そのため、学習空白があったり、学習の基礎の積み上げができていなかったりすることが原因で、転入当初は分教室での授業に前向きには取り組めない児童生徒が多い。

加えて、本分教室に在籍する児童生徒が身につけてほしい力がある。それは、キャリア教育の基本的な能力領域の一つで、人間関係形成能力（他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、さまざまな人々とコミュニケーションを図り、協力・共同して物事に取り組む）である。まさに、変化の激しい社会情勢において、キャリア教育の重要性が増している今こそ大切な力だと考えた。そこで、人間関係形成能力の発達を促すために、自分の考えをみんなの前で話すこと、友達と協力し学習や活動に取り組むことの 2 点に挑戦させたいと考え、小学校 3 年生の算数の授業を通じて研究授業として実施した。本稿にて、報告する。

2 研究授業『小学校 3 年算数』

（1）対象児童（2 人）について

主に下学年（2 年）の内容を学習している児童と 3 年生の内容を行っている児童が在籍していた。1 人は、じっくり考えることはできるが、書いたり、発表したりすることが苦手であった。自信のないことには、全く取り組まない様子が目立った。もう 1 人は、積極的に自分の意見を発表するが、他者には分かりにくい表現であることが多く、自信のないことに対しては「めんどくさい」などの消極的な発言が出ることもあった。

（2）授業のポイント・配慮点

在籍している児童の学習進度を考慮し、2 年生と 3 年生の算数「長さ」の単元を合わせて一斉授業の形態で行った。2 年生と 3 年生の単元を合わせたことで、30cm ものさし、1m ものさし、2m 巻き尺、20m 巻き尺を使って、それぞれの長さを予測してから道具を使って実際に測る活動を行った。学校内の測りたいものを自分たちで決め、それを測るのに適した道具も選び、その長さを予測してから測る活動を行った。さまざまな道具から自分で測定に使う道具を選び、その道具で実際に測ることを繰り返した。その際に測定に使った道具を選んだ理由を児童が説明する時間を設けた。何度も測定することで、さまざまな気づきを言語化するうちに、2 人の児童が、それぞれの意見を聞き合ったり、質問し合ったりするようになった。また、協力して活動する姿もみられた。

（3）算数日記

授業の最後に、振り返りとして算数日記を書く時間を設定した。その日の授業の中で、楽しかったことや分かったこと、できるようになったこと、さらに学んでみたいこと、頑張ったことなどを算数日記として書いてもらった。そして、書いたことを他の児童の前で、声に出して発表させた。当初は、緊張した様子がみられ、恥ずかしがる様子もあったが、

I 実践報告

段々と大きな声で発表できるようになった。

分からない問題が解けたり、新しい単元を学ぶことに意欲的になったりする姿を目の当たりにして、改めて毎日の授業の積み重ねが大切だと感じた。算数日記を通じて、学習の積み重ねた日々が記録として視覚的に残り、自信につながったと思われた。

3 児童の様子

児童自身で長さを測りたいものを決め、協力し合って長さを測ることができた。道具を選んだ理由や、どのように考えて長さを予測したのかも説明することができた。その理由としては、単元全体の中で何度も長さを測る活動を取り入れたことで、スモールステップで見通しを持ち、安心して取り組むことができたことが考えられる。

研究授業時（全8時間、本時第6時）において、1人の児童は、自分の意見を一生懸命話していた。その意見について、もう1人の児童に、その意見はどうですかと教員がたずねると、「分かったよ」としっかりうなずくことができていた。自分の意見を話すことが苦手な児童にとって、現時点ではうなずくことが精一杯の自己表出になっていると評価した。授業の後半では、友達の意見に対して、直接うなずくとともに、自分の気持ちを言葉で相手に伝える場面も見られるようになった。

これまでの授業で、友達が一緒に測る活動に参加しない時もあったため、一緒に活動できたことがとても嬉しかったようで、算数日記に「友達が一緒にしてくれてうれしかった。」と書き、発表することができた。

4 実践を通して

今回の実践は、社会に出た時の土台となる人間関係形成能力の発達を促すために、自分の考えをみんなの前で話すこと・友達と協力し学習や活動に取り組むことの2点に挑戦させることを意識した取り組みであった。本時においての児童たちの様子から、話し合いながら一緒に活動することが、お互いの成長をより促すということが実感できたと思われる。

今後も、課題をスモールステップで取り組めるように設定し、学習内容の習得維持のために繰り返し学習できる授業作りを行いたい。そして、学習での気づきや学びを達成感として実感できるように、「算数日記」の取組みを続けたい。日記に記された言葉が、分教室での学びから得た自信になり、退院後の地域校での学びにつながることを願っている。

また、児童の実態に応じて話し合いながら一緒に活動する経験や体験を取り入れたい。「友達が一緒にしてくれて嬉しかった」と児童の言葉から、友達と学ぶことの素直な楽しさや嬉しさが感じられた。人と関わることに拒否感や抵抗、自信を失った児童であっても、分教室での学びや体験を通して変われることを証明できているのではないか。私は算数などの授業を通して、児童生徒に自信を持たせたい。そのためにも、授業内容や指導方法の改善に日々取り組んでいきたい。